

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

November 2024

Écoutez Bien Vol.41 No.476

11

国語研の役割再認識

表紙／秋は黄金色(国営昭和記念公園)





高倉町珈琲 武蔵村山店



栗のクリーム リコッタパンケーキ と 特製クリームのリコッタパンケーキ

懐かしくて、新しいカフェです

憧れの白いパンケーキ

フレンチトーストのカリッ、フワッ

秋の味覚が詰まったドリアやパスタがたまらない!

高倉町珈琲は、今年10周年。40店舗ある中で、武蔵村山店は5店舗め、すでにこの場所で8年営業しています。落ち着いた空間に、流れるのはビートルズ。武蔵村山店ならではの光景は、お客様に外国人が多いこと。カップルで、ファミリーで、奥様お二人で。お隣の席の会話が聞こえるか聞こえないかの居心地の良さ。メニューは他店舗と同じですが、空気感がいいんです。ぜひぜひ、美味しい秋の味を武蔵村山店で、どうぞ。



秋をまるごと味わえる たっぷり椎茸のビスコドリア と きのこのクリームパスタ 香りがとてもよく濃厚な秋の味



飲むサラダ JAS有機ほうれん草とキウイスムージー と JAS有機キャロットとりんごスムージー
ほうれん草を飲んでいる感じがすごくいい



彩りフルーツのフレンチトースト と 4種類のフレッシュハーブティー
生のハーブは季節を感じられる爽やかな味です



きのこチキンのパイシチュー
チキンと椎茸、しめじの美味しさをパイで閉じ込めました

高倉町珈琲 武蔵村山店

武蔵村山市本町 1-70-2

TEL 042-843-9860

営業時間 7:00~22:00(LO21:30)

定休日 なし

LINEで友達登録するとお楽しみがいっぱいです。

QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。

QRコードをスキャンするには、LINEアプリのコードリーダーをご利用ください。





ネットでも公開しています

前川喜久雄さん

1956年京都府出身。国立国語研究所 所長（名誉教授）。日本の言語学者。専門は音声学、言語資源など。上智大学大学院で言語学を学んだ後、東京工業大学大学院情報理工学研究科にて学術の博士号を取得。鳥取大学を経て、1989年より国立国語研究所。2023年4月より現職。

日本語研究の進展を牽引する

国立国語研究所の役割

かつて取材した時と趣きを異にする国語研

何が変わったのか、国語研の前川所長を訪ねた

——国語研さんは、とても美しい建物の中で何をやっているのかさっぱりわかりません。

前川 国語研は人間文化研究機構に属しています。人間文化研究機構というのは、4つある大学共同利用機関法人の1つです。日本語を研究する中で、我々は研究者のサポートをしています。その中でも重要なのは日本語・日本語教育研究のインフラ整備、それが大きなミッションです。日本語の研究をする際に必要になってくるデータ、信頼性の高いものを、今の時代ですからネットの上で誰でも使えるようにする。使いやすくして公開する、それは大学とは違う役割です。

——言葉の研究のインフラと言いますと。

前川 例えば宮古島の方言の研究をしようとする。すると、それは一種の外国語なわけです。外国語ですから、言葉の仕組み、どんな単語があるのか、文法がどうなっているかという記述から始めます。すると非常に能力の高い人が10年20年かかって1つ、ある地点のことはできるわけです。でもそれは琉球諸語のそのまた一言語だけの研究です。同じような研究を必要とする言語（方言）が日本全国に存在するわけです。そういうものが積み重なって、全体を見ることで初めて見えてくるものもある。それは当然一人の力ではできない。そういう意味でインフラは絶対に必要ですし、今の時代になってくると、我々が作っているような基礎データ、実際に使われた日本語の記録ですが、それは言語の研究だけでなく、情報処理の世界でも利用されます。私自身の書いた論文でも、引用件数の最上位にきているものは、のきなみ情報処理の領域です。

—— そうなんですね。

前川 一人の力でできることは当然限られてくるわけです。ある優秀な研究者が一生かけてきて、亡くなった時にそのデータも失われてしまうなんて、大変もったいない話だし、それを共有化していくことが非常に大事で、また組織で

やらなければならないわけです。

——統数研の話をしているような感じです。

当然コンピューターを使われるわけですね。

前川 もちろん。コンピューターの利用能力は現代の言語研究者にとって必須の能力です。ところで、コンピューターの言語処理というのも、実は国語研ではとても古くからやっているんですよ。1960年代の半ばから当時の大きなコンピューター、メインフレームと言われるものを使って日本語の書き言葉の処理を試みなんです。当時としては先端的な取組で、歴史的に価値のあることでしたが、実をいうとそれほど成功しなかった。当時のコンピューターの能力がハードウェアの面でもソフトウェアの面でも非常に限られていたんです。ソフト技術が進歩して1990年前後からようやく使えるようになってきました。現在では本当にコンピューターなしでは全く仕事できません。それはどこの研究所も同じだと思います。

——2006年に相澤正夫先生にお話をうかがった時には、外来語の言い換え提案をされていた。「インフォームド Consent」とか「ノーマライゼーション」。そして2009年に田中牧郎先生にうかがった時には、医療用語の言い換えを研究されていました。「エビデンス」とか「QOL」とか。

前川 それはだいたい前の話ですね。

—— 独立行政法人時代です。

前川 国語研の設置形態は3回変わっているんです。1948年に文部省の直轄部門として設置されて、その後文化庁に移管されたのですが、2001年には独立行政法人になりました。独法は国民へのサービスをするための機関ですから、何をすべきかと当時一生懸命考えたんです。先ほど来お話ししている、言語のデータをきちんと作って公開するというのも我々なりに考えて得られた方向のひとつですし、より直接的に言語生活、市民生活に係るあり方として「病院の言葉」があったわけです。それが相

澤さん、田中さんが考えた答えでした。

——なるほど。

前川 今は大学共同利用機関ですから、アカデミックな研究の下支えをすることがミッションになります。設置形態とともに組織というのは仕事の内容がやっぱり変わってくるんですね。——市民から見たら設置形態はわかりませんか、ずっと同じことをやっているのだろうと思いますよ。

前川 独法時代の「外来語の言い換え提案」はとても苦勞したわりに、あまり社会に受け入れられなかった。しかし、その反省から生まれた「病院の言葉」はとても評判がよかったんです。医療機関からも。ただ、最初は理解できなかった外来語も時間とともに定着していくことはあります。「エビデンス」なんかはその好例で、いまは医療分野でも政策分野でも受け入れられています。問題は最初の意味がよく分からない時期に、そのことを利用されてしまうことだと思います。政治の世界とか行政の世界とかがそうなのではないでしょうか。わからない外国語でごまかさないでくださいよ、わかる言葉で話してくださいということですね。

—— 相澤先生もそうおっしゃっていました。ところで、現在こちらでなさっているテーマは、先日オープンハウスで見せて頂いたことですね。一つひとつ、とても面白かったです。

前川 うちの研究所にはいろいろなテーマがあるのですが、言語地図などは1970年代の代表的な仕事でした。『日本言語地図』では主に単語を調べましたが、もう少し文法的なこと、活用とか助詞の使い分けとか、そういった側面を調べて文法的な要素に重点を置いた『方言文法全国地図』を1990年代に刊行しています。

方言もそうですが、そもそも、話し言葉の研究は、研究所創設以来の重要な研究テーマになっています。研究所が創設された頃には、現代語の文法は実際上書き言葉の文法で、話し言葉をきちんと調べたデータなんか存在しな

かった。

——しなかった？

前川 1948年に国語研ができて、最初にやった仕事のひとつが現代日本語、特に話し言葉を研究するための方法論の開拓なんです。当時の研究員は、尊敬できるなと思うのは、頭で考えるだけでなく、実際に東京のいろいろな地区でいろいろな組み合わせで実際の会話を大量に録音して、といっても当時ですから大した量ではありませんが、それを書き起こして、どういうイントネーションかということまで含めて書き起こして、それを基に話し言葉の文法というものを作っていったんです。

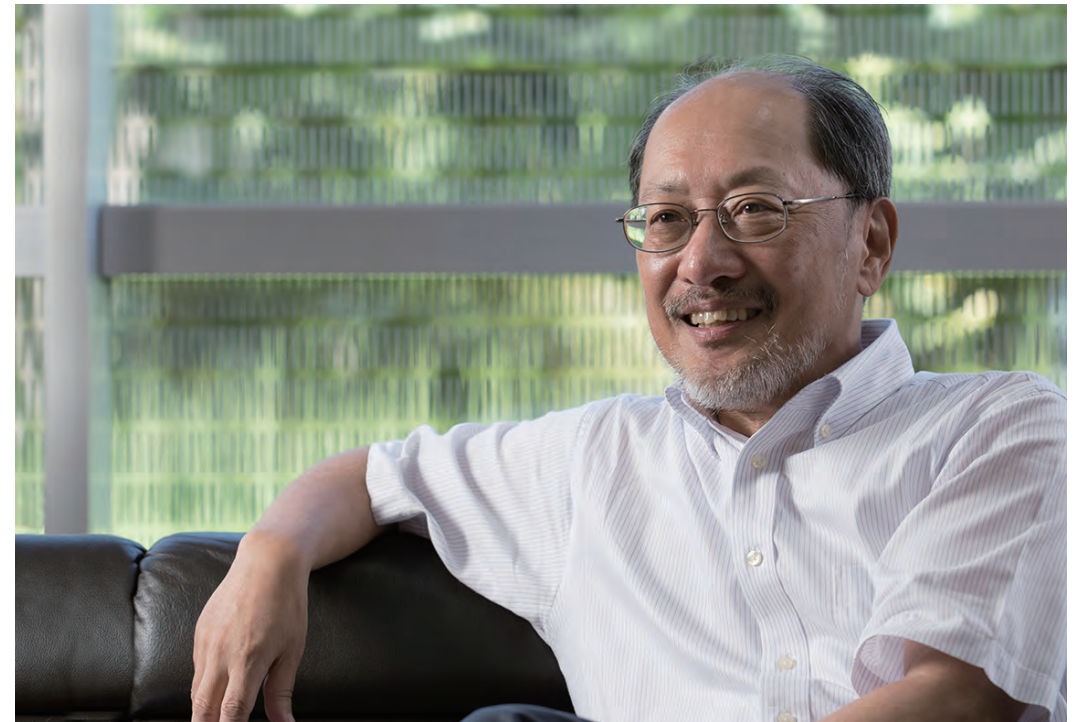
—— 大変な仕事ですね。

前川 これは世界的に見ても立派な仕事で、まさにエビデンス・ベーストなんです。こういう伝統は現在に引き継がれていて、言語コーパスと言いますが、当時の人たちが手作業で頑張って作ったものを、今ではコンピューターの力を借りて何百億という規模で、書き言葉も話し言葉も作れるようになってきました。国語研のホームページを見ていただくとわかりますが、国語研で構築された言語コーパスの中のひとつNWJC(国語研日本語ウェブコーパス)を例にとると258億語あります。

—— 億なんてすごい数で大変そう。

前川 多いから大変とも限らないんですよ。書き言葉と話し言葉では手間がまったく違って、話し言葉の方がずっと大変です。ただし最近では音声認識の精度が劇的にあがったので、話し言葉のデータ作成も少し楽になってきました。

ちなみに日本語の音声認識の精度の向上には、我々が2000年頃に作った『日本語話し言葉コーパス』が貢献しています。国語研が総務省の通信総合研究所と協力して作ったデータをもとに、東京工業大学と京都大学の情報処理の先生たちが認識システムを構築しました。最



近、文理融合研究の必要性が指摘されていますが、これはその早い時期の明らかな成功例のひとつだと思います。

—— 音声認識を使ったら書き起こしなくていいのですか？

前川 さすがにそれはね、人手が完全に不要にはならない。でも研究を進めて京都大学教授の河原達也さんを中心に衆議院の会議録の音声認識が実現したんですよ。ですから随分前から衆議院の議事録では音声認識が使われています。

—— 速記じゃないんですか。

前川 もちろん速記者がチェックしています。—— オープンハウスの時の句読点の話は国語研らしいし、興味深かったです。

前川 面白いテーマですよ。どこでも教わらないでしょ。

—— 言われてみれば確かに。

前川 私は昔、鳥取大学で教えていた時に、そのような研究を学生と一緒にやったことがあります。ジャンルを決めるとある程度パターンが見えてくるんです。例えば日本文学全集みたいなもので、その中からランダムにサンプルを選ぶ。いろいろな作家の文章があるのですが、どういう所に読点を打つかという観点から分析するんです。そうするとね、師弟関係でほぼ同じになることがある。井伏鱒二は志賀直哉とはほとんど同じ。三島由紀夫は川端康成とよく似て

いる。あと、教科書は学科によって異なるとかね。出版社が違っても学科ごとに似るんです。—— おもしろい。

前川 面白いけど、それだけではなかなか食ってはいけない(笑)。大学共同利用機関となつてからのミッションは、1つには言語研究のための高品質な言語資源の開発であり、日本語・日本語教育研究のインフラ整備。また日本語ならびに日本語と関連する諸言語について、諸科学と連携しながら先端的な研究を実施して、新たな研究領域を開拓し、国内外の研究ネットワークを構築することです。きちんとした日本語のデータがあるから日本語の情報処理ができるわけですし、AIも動くわけです。そういう意味で国語研の存在を認知していただきたいと願っています。

それから最後にぜひ知っていただきたいことがあります。私が国語研に入った1989年には50名以上の常勤研究者がいましたが、それが現在では20名まで減っています。政府から渡される運営費交付金が20年以上にわたって毎年削減されてきた結果です。この状態で研究の広がりやレベルを維持するのはほぼ不可能なんです。そこを研究者の頑張りでなんとか維持しているのが実情です。これは他の国立研究機関も同じだろうと思います。最後が暗い話題になって恐縮ですが、そういうこともぜひ知っていただきたいと思います。



令和6年自衛消防審査会

9月12日(木)

立川・国立の防火防災意識の高さを改めて知る

長く続く事業所の自衛消防審査会。

今年初めて、男子隊・男女混成隊と女子隊の区別をなくして行った。

女子隊にとって不利なのではと思われたが、全ては結果が物語る。

新人研修の一環として位置づけられる事業所の自衛消防。火災や地震など災害時の初期活動を円滑に行い、そこに集う人びとの安全を確保するために設置される組織。設置するだけでなく訓練することで、いざという時に動ける名実ともに頼もしい組織となる。

自衛消防の役割は、初期消火や避難誘導、通報連絡など。それらを含めた一連の動きを毎年「自衛消防審査会」として審査し、更なる防火意識向上へとつなぐ。選出される隊員は決して消防の専門家ではなく、大型商業施設で言えば各フロアの販売員だったり、鉄道で言えば運転手だったり車掌だったり駅員だったり。病院も同じ、放射線技師だったり事務方だったり看護師だったり薬剤師だったり。しかも隊員全員が同じ職場とは限らない。同一事業所でも、金融機関なら別々の支店から練習に集まってくることもあるし、職場が都内で仕事を切り上げて立川まで練習のために通ってくる人もいます。足りないのは練習時間だけではない。練習する場所が無かったり、設備が整っていなかったり。消火栓の水を出して練習できる隊は限られている。その中で、それぞれが全力を尽くした審査会だった。

「規律」と言われても何のことやら。「回れ右」が最初からスツとできる人なんて数えるほど。大声が出せなくて「聞こえない」と言われる一幕も。初回の練習から見せてもらったが、大丈夫?と言いたくなるような所作だった隊員が、審査会当日には別人になっていて、成長を感じ驚かされた。参加した隊の隊員全員に、そして、猛暑の8月、隊ごとに1から指導を繰り返した立川消防署の皆さんにも拍手を送りたい。



優勝

立川市役所一番隊

今年も合宿で選抜されたメンバーが取り組んだ。市役所の地下駐車場で、先輩方にアドバイスを頂きながら練習し、この日を迎えた。



準優勝

株式会社 立飛ホールディングス 自衛消防隊 (女子隊)

優勝だけを目指して頑張ってきたので、準優勝と言われても悔し涙が止まらない。火を消すまでのタイムは1番だった。



3位

株式会社 立飛ホールディングス 自衛消防隊 (男子隊)

悔しさは残るけれど、やるだけのことはやったという充実した表情。優勝は逃しても3位までに食い込むところがさすが立飛。





山崎純一立川消防署長の言葉

自衛消防審査会は災害発生時に、事業所を守るための一連の対応要領を体得することを目的に実施しています。今回で49回目の開催となる伝統ある行事となっています。

昨年までは男子・混成隊の部と女子隊の部の2つに分けて実施していましたが、本年は性別による区別を廃し、統一して審査するなど実施方法を変更して実施しました。以前赴任していた街でも署長として自衛消防審査会を開催してきましたが、立川市、国立市の事業所の方々は防火意識が非常に高く、本日の審査会もハイレベルな結果となり、消防署長として大変心強く感じました。

各事業所の自衛消防隊は、災害時の初期対応を担う、重要な立場であり、事業所における防火防災のリーダーとして、今後とも訓練を継続していただきたいです。

令和6年自衛消防審査会 審査結果

順位	事業所名	合計点	タイム
優勝	立川市役所一番隊 自衛消防隊	294	20.72
準優勝	株式会社立飛ホールディングス自衛消防隊（女子隊）	289	15.84
3位	株式会社立飛ホールディングス自衛消防隊（男子隊）	288	16.49
4位	立川拘置所 自衛消防隊	284	20.28
5位	ららぽーと立川立飛隊	283	16.72
6位	一如社 自衛消防隊A	283	16.75
7位	JR立川 青梅線チーム	283	19.97
8位	地理情報隊 自衛消防隊	281	18.31
	（8位までが入賞）		
9位	エキュート立川 自衛消防隊	279	19.15
10位	ルミネ立川店 自衛消防隊	279	20.06
11位	国立市役所 自衛消防隊	279	22.63

順位	事業所名	合計点	タイム
12位	多摩都市モノレール 自衛消防隊	277	19.53
13位	立川市役所二番隊 自衛消防隊	277	21.78
14位	JR立川 南武線チーム	276	21.81
15位	JR立川 中央線チーム	275	17.91
16位	真如苑女子 自衛消防隊	275	18.44
17位	真如苑男子 自衛消防隊	271	18.78
18位	立川病院 自衛消防隊	271	20.97
19位	多摩信用金庫 自衛消防隊	271	24.78
20位	一如社 自衛消防隊B	259	18.53
21位	グランデュオ立川店 自衛消防隊	256	16.35
22位	LABI LIFE SELECT 立川	213	32.35
23位	国立病院機構災害医療センター自衛消防隊	178	62.69

4位

立川拘置所 自衛消防隊

初出場ながら好成績、さすがです。



5位

ららぽーと立川立飛隊

まさかの瞬間。勢い余ったか、足が線から出ちゃって惜しかった。



6位

一如社 自衛消防隊A

健闘しました。練習を通して成長を感じた隊のひとつです。



7位

JR立川 青梅線チーム

もともと男女の区別のない職場なんだと思われました。すばらしい。



8位

地理情報隊 自衛消防隊

規律はさすがの自衛隊。にわか作りではない安定した動きでした。



9位 エキュート立川 自衛消防隊



10位 ルミネ立川店 自衛消防隊



17位 真如苑男子 自衛消防隊



11位 国立市役所 自衛消防隊



12位 多摩都市モノレール 自衛消防隊



18位 立川病院 自衛消防隊



19位 多摩信用金庫 自衛消防隊



13位 立川市役所二番隊 自衛消防隊



20位 一如社 自衛消防隊B



14位 JR立川 南武線チーム



16位 真如苑女子 自衛消防隊



21位 グランデュオ立川店 自衛消防隊



22位 LABI LIFE SELECT立川



15位 JR立川 中央線チーム



23位 国立病院機構災害医療センター自衛消防隊



あの日も立川はスケボー



えくてびあんの写真から

1995年。阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件の起きた年。「インターネット元年」とも、戦後50年で「戦後史の転機」とも言われた年だ。立川では、5月21日、立川青年会議所主催の「立川パレット祭 スケートボードプロ&アマチュアムラサキ CUP」が開催された。写真はその一場面。種目はストリート。青年会議所第31代理事長の時のようだ。この年月刊えくてびあんは創刊11年。記者の数も多かったので、あちらこちらにお邪魔して写真を撮っていた。この写真もそんな中の1枚だが、アーバンスポーツと呼ばれる競技、立川では29年も前に大会を開いて技を競っていたんだなあと。立飛の駅前にムラサキスポーツのムラサキパーク立川立飛があるが、この時も協力してくれていたのだから、立川とは縁が深い。

